

宇部市文化振興まちづくり審議会 第5回会議概要

日 時：平成28年(2016年)11月17日(木) 15:00～15:55

場 所：市役所2階 第3会議室

出席者：委員8人(欠席2人)

事務局：片岡総合政策部長、庄賀総合政策部次長

青山文化・スポーツ振興課長、荒武文化・スポーツ振興課長補佐

酒井文化振興係長

議事

(1) 答申書案(次期ビジョン案)の検討について

次期ビジョン案について概要を事務局より説明。

(会長) 目標値については、年度ごとに考えなくてはならないところもあるが、目標値に到達することだけが目的になってはいけない。

仮に達成できないものがあったとしても、地道に取り組を進めていけば良いと考える。

少しずつ文化に親しみを感じる人が増えていくことが大切だ。

また、アンケートなどのデータの取り方も難しいところもある。

「1年以内に文化芸術を鑑賞していない」人が28%おられたが、以前にも話したとおり、文化活動をちょっと高尚なものイメージしていると感じられる。

テレビで名作映画を観たとか、子どもたちの絵の展覧会を観に行ったりなど、そういったものも文化活動を体験したものに含まれるということを、ビジョンのなかで補足できたらと思う。

文化は、日常的に浸透していくものという認識を拡げていきたい。

なお、本日が最後の会議になる。資料には事前に目を通しておられると思うので、全体を通してそれぞれご意見をいただきたい。

(委員) テーマAの「まちじゅうアートフェスタ」の「子どもたちへの文化の教育と文化活動の支援」欄に、取組が記載されているが、テーマBの再掲載となっている。

できれば、是非、再掲載でない独自の施策も盛り込めるとよいと思う。

また、テーマC「子どもへの文化体験の取組」は表現を「子どもの文化体験の推進」と変更したらどうか。こちらの表現の方が、「子どもたちのために何かないか」、「何かしてみよう」と大人たちが考えるのではないか。

市民全体で、子どもたちの文化活動を応援していきたい。

なお、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに伴う「文化プログラム」に向けての取組も入れてもらいたい。

(事務局) 東京オリンピック・パラリンピックに伴う「文化プログラム」については、これから、具体的な内容を決めていくところだが、「テーマB」又は「テーマC」の「国内外における文化交流の促進」欄に取組を記載する方向になると思う。

(委員) 宇部市は、東京オリンピック・パラリンピックで、スペインと交流することになっているのか。

(事務局) スペインのホストタウンとして、既に山口県と山口市が登録されており、宇部市もそこに加わって取組を進めていくこととしている。

(委員) 改訂案は、大変わかりやすく、読みやすくなった。
広く市民の皆さんに読んでもらうにはそれが大事なことだと思う。

(委員) ビジョンとしては良いものができたと思う。
ただ、ビジョンは「良くできた資料」ではいけない。改訂案でも、数多くの取組・施策があるが、実際に実行されるのが大事であり、それを期待している。

また、各取組・施策でそれぞれ、目標が設定されているが、目標値がエンドレスで、どこまでも値が高く設定されるなどということがあっては良くないと思う。

各取組・施策で、ある程度の「完成形」が示されたのが、今回の改訂案であり、何かあるたびに目標値が毎年度、上方修正されたりすると、どこが目標値なのか、何が目標なのか分かりにくくなると思う。

(会長) 言われるとおり、どこまでいったら完成なのかというところは大事で、それを示すことがビジョンの役割だと思う。

また、人口が減少する社会で、イベントを参加人数だけで評価するのも難しいところもある。

例えば、テーマBの「ときわ公園のにぎわい創出」だが、目標値は入園者数としており、基準年度の60万1千人に対して、平成30年度以降は80万人になっている。

ときわ公園にいくと、ジョギングや散歩をしたり、また、家族でお弁当を食べたり、市民の憩いの場として定着していると感じる。

駐車場の利用で算出した入園者数だけでは測れないところもあろう

(委員) 審議会の委員になり、宇部市が文化に関することにテーマを設け、様々な施策を関連づけた計画をつくり、実行しているということを知った。

また、昨年開催された「第26回UBEビナーレ×まちじゅうアートフェスタ2015」についても、4つのイベントからなる構成・理念なども良くわかった。

(会長) 第一次ビジョンを策定する際に、庁内の施策で文化に関係があると思われる事業を洗い出し、テーマを設定して体系化していった。

新しいビジョンの広報についてはどうなっているか。

(事務局) 報道発表やHPなどで公表する予定となっている。今回は、事業の中に「取組主体」を入れている。

行政だけが取り組むのではなく、民間、ボランティア、企業など、主体として想定されるものを明記している。各主体に広くご理解いただく意味で広報し、それぞれができることを実践してもらいたいと考えている。

(会長) 第一次ビジョン策定の際は、多数の事業を委員・事務局皆で、苦勞して整理した結果、最終的には50数事業となった。

第一次ビジョンに比べると、内容はスマートで、よりわかりやすくなった。

(委員) テーマA・B・C及びそれらに連なる重点アクションの体系図は、ぜひ市民へPRしていけば良いと思う。

この部分はビジョンの基本をわかりやすく示している。

(委員) よくまとめられていると思うが、先ほどの意見にもあったとおり「絵にかいた餅」にならないようにしたい。

文化は、実際には、お金も時間もかかるもので、実効性を持たずことは大変である。

行政や企業・団体などが、文化活動を推進・支援することと同時に、最終的には、市民一人ひとりが、それぞれの立場で、できることを手弁当であることが重要なのではないかと思う。

改訂されるビジョンが、そのきっかけになるように願っている。

(副会長) よくまとめられたと思う。

取組主体がそれぞれ示され、今後は、市民や企業などを実際に巻き込んで事業を進めることが大事になる。

(会長) では、本日の協議結果を踏まえて、事務局で修正案を作成し、私と副会長が内容を確認した上で、答申書としたいと思うが、御一任いただけるか。

《一同賛同》

それでは、他に気づき等あれば、11月22日（火）までに、電話やメール・ファックスで、事務局に連絡願いたい。

（２）その他

11月28日（月）14時から正副会長2人で市長に答申することが申し合わされた。